第16回宇宙開発委員会定例会議議事次第

1. 日　時　　昭和45年12月25日（金）
　　午後2時～4時

2. 場　所　　宇宙開発委員会会議室

3. 議　題　　1. 昭和45年度1～2月期打上げ実験計画について

　　2. 宇宙開発関係予算について

4. 配布資料

委16－1　第15回定例会議議事要旨

委16－2　第3回ロケット打上げ実験計画書（宇宙開発事業団）

委16－3　昭和45年度第2次観測ロケット実験計画（東大宇宙研）

16－4　大蔵内示案

委16—1

第15回宇宙開発委員会定例会議議事要旨

1. 日　時　　昭和45年12月9日（水）
　　午後3時～4時半

2. 場　所　　宇宙開発委員会専用会議室

3. 議　題　　第一分科会報告書について

4. 配布資料

　委15—1　第13回定例会議議事要旨
　委15—2　第14回定例会議議事要旨
　委15—3　第一分科会報告書
　委15—4　欧州宇宙会議についてのベルギー大使からの報告
　委15—5　M—4S—1、K—100—3実験報告
　委15—6　JCR—4、LS—C—4実験報告

5. 出席者

　委　員　　山県昌夫
　〃　　網島　毅
　〃　　大野勝三
　〃　　吉識雅夫

　説明者
　　第一分科会々長　佐貫亦男

　関係行政機関職員
　　科学技術庁事務次官　藤波恒雄
　　建設省大臣官房技術調査室　中村六郎
　　運輸省海上保安庁水路部編暦課　山崎　昭
　　運輸省気象研究所研究業務課　中村　繁
　　運輸省官房副政策計画官　高谷　悟
　　気象庁企画課　秋山　功
　　郵政省電波監理局無線通信部長　大塚次郎
　　〃　宇宙通信調査室主査　佐藤英男
　　通産省工業技術院総務課　相馬哲夫
　　〃　研究業務課　柘植方雄
　　文部省大学学術局学術課　鈴木　喬
　　通産省重工業局航空機武器課　高橋経治
　　宇宙開発事業団システム計画部計画課　高木喜一郎
　　東京大学宇宙航空研究所業務課　秋元春雄

　事務局
　　科学技術庁研究調整局宇宙企画課長　園山重道他

6. 議事内容

(1) 「第13回及び第14回宇宙開発委員会定例会議議事要旨」が確認された。

(2) 事務局から、第一分科会報告書の朗読があり、続いて佐貫分科会長から、この報告書について説明があつたのち、次の討議がなされた。

(イ) 大野委員：米国からの輸入部品に対して、総合意見の1.において指摘してあるような対策を改めてたてねばならないことは、先進技術だからといつて安易に導入することに注意を促した重要な御指摘だと思う。

(ロ) 網島委員：まず、電磁弁が小さいのでも間に合うのなら、始めからこの信頼性が確認されている小型電磁弁を使うべきではなかつたかという疑問を感じる。

次に爆発ボルトであるが、これは既に東大で経験ずみのものであるのに、なぜ事業団は、同じ失敗を繰り返したのか。

佐貫分科会長：信頼性の確保のためには「新しいものを使う時は気をつけろ」という諺があります。疑つて、そして充分な確認してから使うことが大切です。

(ハ) 吉識委員：バルブの試験は打上げ前には充分にやつたのか。

佐貫分科会長：勿論やつています。例えばグレン中佐の大気圏突入の際、手動バルブが故障しましたが、これも何百回と地上でテストして確認されたあとなのです。宇宙空間では突然故障を生じたりするものなのです。つまり、どのような未知の要因が出現するかわからないのです。

吉識委員：ＪＣＲ及びＬＳ－０のロール制御力の不足は問題である。未知の要因があつたかも知れないがこの程度の外乱トルクの推定は十分できる筈である。

佐貫分科会長：大は小をかねる。不足するとは確かに問題だ。どの程度の非対称性や排気の影響があるか位は前もつてテストしておくのは当然で、吉識先生に全く同感です。

このことは、自分で設計したままですと、これ位でいいだろうということになる。第三者がそれについて、いじくりまわすチエック・アンド・レビューがいかに大切であるかを如実に示していると思います。

(ニ) 吉識委員：事業団の爆発ボルトや引抜きの事故はすでに東大の方で確立しているのに、同じ事故を繰り返すことは実に残念だ。相互の技術交流についてもつと開発実施機関は再考すべきであると思う。

(ホ) 綱島委員：二流の部品を輸入するとは不見識である。輸入しなければならないのであるから当然わが国で十分な試験は期待できない。従つて最高級品を買つてくるのが常識である。

最後に、山県委員長代理から、第一分科会の任務等について再検討したい旨の発言があつたのち、この第一分科会の報告書を採択した。

なお、このあと、資料１５－４について事務局から説明があつた。